

みの～れで人を集める勉強をしています！

爽やかな秋風にコスモスの花がゆれていて綺麗ですね。金木犀の甘い香りが漂い始めると深まっていく秋を感じます。過ぎしやすすい季節の中で小さな秋を見つけに散歩に出かけるのもいいですね。また一つ新しい発見があるかもしれません。今回はサーカスプロジェクト実行委員会のメンバーで、かすみさんがうら市にお住いの濱野房美さん取材します。



サーカスプロジェクト実行委員

はまのふさみ
濱野房美さん

「1週間のほとんどが、ボランティアです」と話す濱野さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.159

濱野さんにみの～れとの出会いを聞いてみました。「茨城空港でボランティアをしていて小美玉を知りました。10年前ですよ。それまでは小美玉市を知らなかった。茨城に来る前は神奈川県に住んでいました。父が農林省に勤めていたので転勤族で全国を回りました。転校、転校で入った学校と、出た学校が違ったのね。実は茨城も霞ヶ浦の干拓をしていたので小さい時に茨城県内の小学校に通っていたことがあったらしいです。主人が病気になって『神奈川より田舎がいいよね』と私が言って、田舎って言うのと茨城かな？という事で移り住みました。主人に添加物の入っていないものを食べさせたくて土浦にパン屋さんを開業しました。パン作りは東京や神奈川に住んでいた時にパン教室で習ったくらい。開業してから、茨城県で新しいパンを作ると言われて『れんこんパン』を作ったのが当たったんですね。フランスパンもずいぶん売れました。京成ホテルや神奈川の松坂屋にも納めました。ずいぶん新聞にも載りました。パン屋さんには力仕事です

よね。ただのサラリーマンでいた主人が一生懸命やってくれたので、できたことです。主人が病気になって、やるしかないと思つて根性でパン屋さんを始め、14年間やりました。ホウレンソウならホウレンソウだけとか、そのままの物を食べる。余命40日と言われた主人が24年生きたのもも添加物の入っていない食品を食べたおかげかなと思えます。友達は『ぜひ、本を書いて出版するといいいよ！』と言ってくれるのですが、懐かしそうに話してくれました。

茨城空港のボランティアでみの～れを知った濱野さんは、『なつかしの名画座』で高倉健の映画を観に来たときから関わるようになったそうです。「かすみさんがうら市で映画を無料でやってもら人が集まらない。みの～れで五百円でも人がたくさん集まる。どうしてだろう？と思うようになって関わるようになったら、2、3か月も前から話し合いをして準備をしている。ここではたくさんさんの事を学ばせてもらいました。それから声をかけてもらって、みの～れの企画実行委

員会に入り、サーカスプロジェクトの方に移りました」と話してくれました。

濱野さんの趣味を聞いてみました。「何でもやりますね。洋裁から編み物、華道まで誘われると何でも行っちゃいますね。今は、子ども食堂のボランティアと介護、これはヘルパー2級を持っているので施設に行つて外出介助をしています。0才〜3才までの子どもたちを見るボランティアや、教員免許を持っているので小学校に学習支援に行つたり、保育園、幼稚園、学校老人ホームなどに絵本の読み聞かせに行つているので、毎日家に居ないんですよ」と笑顔で話してくれました。

みの～れでは11月14日(土)に超演芸フェスティバルを開催します。9組のパフォーマーが皆さんを笑顔にしてくれます。新型コロナウイルスの感染防止には十分に気を配りますので爽やかな陽気の中、ぜひ、遊びにきてください。詳しくはみの～れに問い合わせをお願いします。

(藤田佐知子)